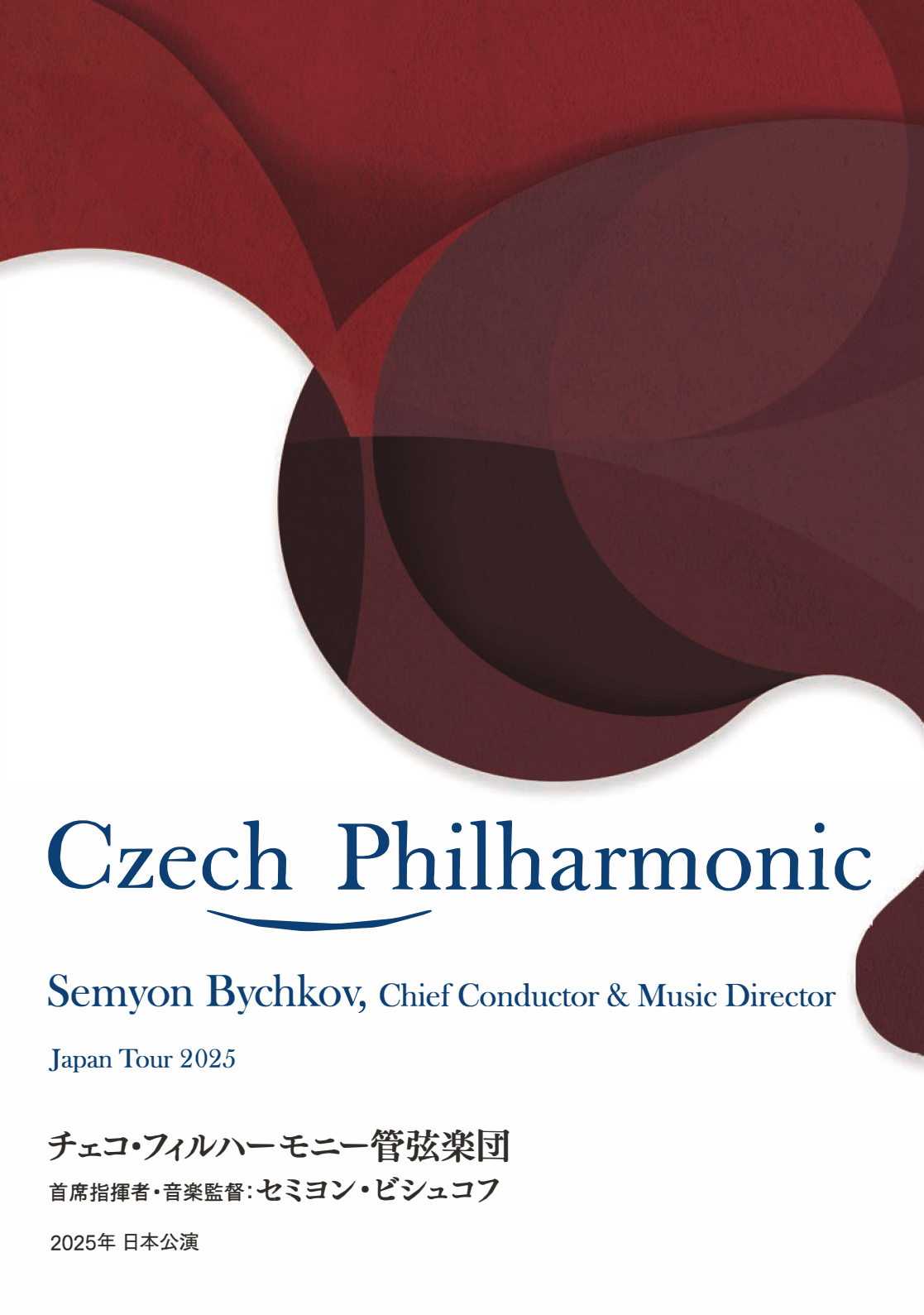




Czech Philharmonic

Semyon Bychkov, Chief Conductor & Music Director

Japan Tour 2025

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

首席指揮者・音楽監督：セミヨン・ビシュコフ

2025年 日本公演

セミヨン・ビシュコフ指揮
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 2025年 日本公演

Czech Philharmonic Japan Tour 2025
Semyon Bychkov, Chief Conductor & Music Director

10月22日(水) 19:00 東京 サントリーホール

Wed, October 22, 19:00, Tokyo, Suntory Hall

ラヴェル:ピアノ協奏曲 ト長調 M.83 [ピアノ:チョ・ソンジン]

M. Ravel: Piano Concerto in G major, M.83 [Piano: Seong-Jin Cho]

第1楽章:アレグロメンテ

1st Mov.: Allegamento

第2楽章:アダージョ・アッサイ

2nd Mov.: Adagio assai

第3楽章:プレスト

3rd Mov.: Presto

ショスタコーヴィチ:交響曲第8番 ハ短調 Op.65

D. Shostakovich: Symphony No.8 in C minor, Op.65

第1楽章:アダージョ

1st Mov.: Adagio

第2楽章:アレグレット

2nd Mov.: Allegretto

第3楽章:アレグロ・ノン・トロッポ

3rd Mov.: Allegro non troppo

第4楽章:ラルゴ

4th Mov.: Largo

第5楽章:アレグレット

5th Mov.: Allegretto

10月23日(木) 19:00 東京 サントリーホール

Thu, October 23, 19:00, Tokyo, Suntory Hall

ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 ロ短調 Op.104 [チェロ:アナスタシア・コベキナ]

A. Dvořák: Cello Concerto in B minor, Op.104 [Cello: Anastasia Kobekina]

第1楽章:アレグロ

1st Mov.: Allegro

第2楽章:アダージョ・マ・ノン・トロッポ

2nd Mov.: Adagio ma non troppo

第3楽章:アレグロ・モデラート

3rd Mov.: Allegro moderato

チャイコフスキー:交響曲第5番 ホ短調 Op.64

P. I. Tchaikovsky: Symphony No.5 in E minor, Op.64

第1楽章:アンダンテ〜アレグロ・コン・アニマ

1st Mov.: Andante — Allegro con anima

第2楽章:アンダンテ・カンタービレ

2nd Mov.: Andante cantabile

第3楽章:アレグロ・モデラート

3rd Mov.: Allegro moderato

第4楽章:アンダンテ・マエストーゾ

4th Mov.: Andante maestoso

〜アレグロ・ヴィヴァーチェ

— Allegro vivace

主催:ジャパン・アーツ

協賛:三井住友海上プライマリー生命

後援:



チェコ共和国大使館



チェコセンター
東京

セミヨン・ビシュコフ (首席指揮者・音楽監督)

Semyon Bychkov, Chief Conductor & Music Director

実現した夢は新たな夢を生み出す。

ビジョンは生き続け、それを持続させたいという願いがある限り、

新しい夢もまた実現していくだろう。

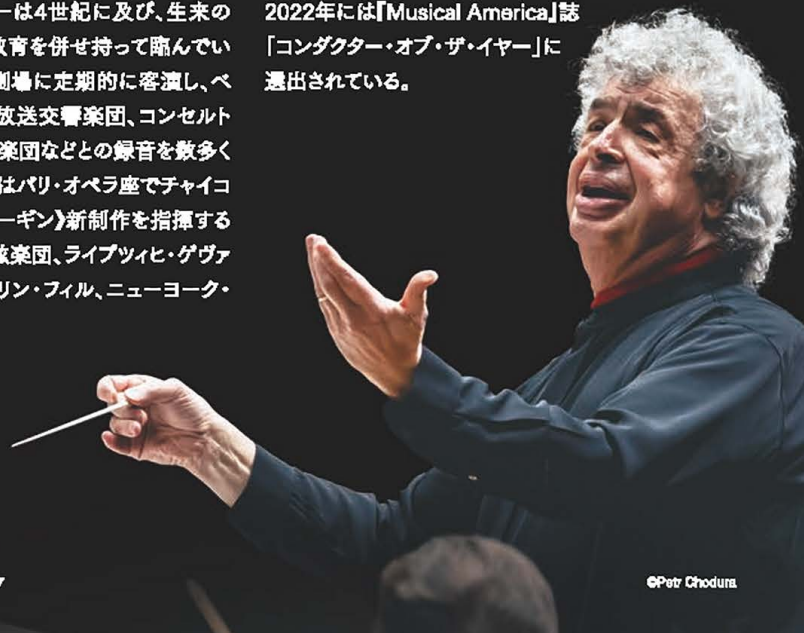
—— セミヨン・ビシュコフ

2018年、ビシュコフはチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者・音楽監督に就任した。このシーズンはチェコスロヴァキア独立100周年を祝うブラハ、ロンドン、ニューヨーク、ワシントンでの演奏会で幕を開け、翌年にはチャイコフスキーの交響曲を中心とした演奏会、レジデンシー、録音から成る「チャイコフスキー・プロジェクト」が完結。2024年「チェコ音楽年」には、チェコの作曲家たちを取り上げ、スメタナ《わが祖国》(2025年「BBCミュージック・マガジン」誌「年間最優秀管弦楽録音」に選出)やドヴォルザークの交響曲第7・8・9番および序曲三部作《自然・人生・愛》の録音を発表。またチェコ音楽を中心とした、ヨーロッパ・アメリカでの広範囲なツアーを行った。2025/26シーズンはブラハでの活動に加え、台湾、日本、韓国、オーストラリア、ドイツ、北欧などへのツアーを予定。来春には過去8シーズンにわたり録音してきたマーラー交響曲全集がリリースされる。

ビシュコフのレパートリーは4世紀に及び、生来の音楽性と厳格なロシアの教育を併せ持って臨んでいる。世界有数の楽団や歌劇場に定期的に客演し、ベルリン・フィル、バイエルン放送交響楽団、コンセルトヘボウ管弦楽団、バリ管弦楽団などとの録音を数多く残した。2025/26シーズンはバリ・オペラ座でチャイコフスキー《エフゲニー・オネーギン》新制作を指揮するほか、コンセルトヘボウ管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン・フィル、ニューヨーク・

フィルなどにも登場。1992年録音のチャイコフスキー《エフゲニー・オネーギン》は「Opera」誌によって「史上30の名盤」に選ばれ、BBCラジオ3「Building a Library」でも推薦盤(2020年)となった。ワーグナー《ローエングリン》は2010年「BBCミュージック・マガジン」誌「レコード・オブ・ザ・イヤー」に、ウィーン・フィルと録音したシュミット《交響曲第2番》は2018年同誌「レコード・オブ・ザ・マンズ」に選出された。

チェコ・フィルと同様、ビシュコフもまた東西両方の文化に深く根差している。1952年サンクトペテルブルク生まれ。1975年にアメリカへ移住。1989年に旧ソ連へ戻り、サンクトペテルブルク・フィル首席客演指揮者に就任。同年にバリ管音楽監督にも就任。1997年にケルンWDR管首席指揮者、翌1998年にドレスデン国立歌劇場首席指揮者に就任。BBC交響楽団とロイヤル・アカデミー・オブ・ミュージックで名誉ある役職を持ち、2015年には国際オペラ賞「最優秀指揮者賞」、2022年には「Musical America」誌「コンダクター・オブ・ザ・イヤー」に選出されている。



©Petr Chodura



Semyon Bychkov

セミヨン・ビシュコフ指揮
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
2025年日本公演

10月19日(日) 大阪 サ・シンフォニーホール 主催:サ・シンフォニーホール ★
10月20日(月) 東京 NHKホール 主催:NHK、NHKプロモーション
10月21日(火) 東京 文京シビックホール 主催:文京シビックホール((公財)文京アカデミー) ★
10月22日(水) 東京 サントリーホール 主催:ジャパン・アーツ ★
10月23日(木) 東京 サントリーホール 主催:ジャパン・アーツ ○
10月25日(土) 埼玉 所沢市民文化センター ミュース 主催:(公財)所沢市文化振興事業団 ○
★チョ・ソンジン ○アナスタシア・コベキナ

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

Czech Philharmonic

1896年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団はドヴォルザーク自身の指揮によるオール・ドヴォルザーク・プログラムで創立公演を行った。以来、マルチニューヤナー・チェクをはじめとするチェコの作曲家を積極的に支持し、ブラームス、チャイコフスキー、マーラーの音楽とも深い関係を築いた。1908年にマーラーの《交響曲第7番》を世界初演。楽団はチェコの地と激動の歴史に根ざし、自国の作曲家たちへの支持、そして音楽が人生を変えるという信念を核に、長年にわたって独自の芸術性を育んできた。

教育活動にも精力的で、ユース・オーケストラ、アカデミー、若い音楽家のためのイルジー・ピエロフ・ヴェク賞などを通して次世代を支援。400校以上との教育連携のほか、ロマン・コミュニティーへの音楽プログラムも展開。

第130シーズンとなる2025/26シーズンは、首席指揮者・音楽監督セムヨン・ビシュコフのもと、チャイコフスキーとショスタコヴィチを軸としたプログラムで開幕する。アジアとヨーロッパでのツアーのほか、国内のプラハの春、プラハ・ドヴォルザークなどの音楽祭、グラフェネッグなど国際音楽祭にも出演。

ビシュコフ指揮による2025/26シーズンの主な演奏目には、メンデルスゾーン、ストラヴィンスキー、マー

ラー、ブリス・デスナー（第130シーズンのコンポーザー・イン・レジデンス）などの作品が含まれ、アーティスト・イン・レジデンスにエフゲニー・キシンを迎える。首席客演指揮者としてサー・サイモン・ラトル、ヤクブ・フルチャが多彩な演奏を予定。客演指揮者では、ズビン・メータ、アントニオ・パッパーノ、クリスティアン・マチュラル、ベトル・ポベルカ、トマス・アデスらが登場する。また今シーズンのソリストとして、藤田真央、バーバラ・ハンニガン、マグダレーナ・コジェナー、チョ・ソンジン、ヴィンキング・オラフソン、アウグスティン・ハーデリヒなど数々のトップアーティストらが名を連ねる。

2024年に英『グラモフォン』誌の「オーケストラ・オブ・ザ・イヤー」に選出。カーネギー・ホールでの3日間のレジデンス・プログラムでは、『ニューヨーク・タイムズ』紙により「チェコ・フィルは時代を超えた宝物であり、国の音楽遺産の優れた管理者」と絶賛された。なお同年は「チェコ音楽年」として、スメタナ生誕200周年を記念した「わが祖国」新録音をリリースし、『BBC ミュージック・マガジン賞』にノミネートされた。現在、チェコ・フィルとビシュコフは40年以上ぶりのマーラー交響曲全集の新録音にも取り組んでおり、来春にリリース予定。

Czech Philharmonic

Chief Conductor & Music Director Semyon Bychkov

1st Violin

Jan MRÁČEK, *Concertmaster*
Jiří VODIČKA, *Concertmaster*
Jan FIŠER, *Concertmaster*
Magdaléna MAŠLAŇOVÁ
Otakar BARTOŠ
Luboš DUDEK
Marie DVORSKÁ
Bohumil KOTMEL
Jiří KUBITA
Lenka MACHOVÁ
Viktor MAZAČEK
Pavel NECHVÍLE
Zdeněk STARÝ
Milan VAVŘINEK
Zdeněk ZELBA
Marko ČAŇO

2nd Violin

Petra BRABCOVÁ
Ondřej SKOPOVÝ
Markéta VOKÁČOVÁ
Milena KOLÁŘOVÁ
Petr HAVLÍN
Pavel HERAJN
Jitka KOKŠOVÁ
Veronika KOZLOVSKÁ
Vítězslav OCHMAN
Václav PRUDIL
Jiří ŠEVČEK
Helena ŠULCOVÁ
Tereza PETROVÁ
Antonín KRATOCHVÍL

Viola

Eva KREŠTOVÁ
Pavel CIPRYŠ
Dominik TRÁVNÍČEK

Jaroslav PONDĚLÍČEK

Jiří POSLEDNÍ
Jiří ŘEHÁK
Jan ŠIMON
Lukáš VALÁŠEK
Silvestr PAVLÍČEK
Elnara TAGHIZADE
Adam PECHOČIAK
Pavel KIRS

Cello

Václav PETR
Adam KLÁNSKÝ
František HOST
Josef ŠPAČEK
Jakub DVOŘÁK
Tomáš HOSTIČKA
Jan HOLEŇA
Marek NOVÁK
Jan KELLER
Eduard ŠLSTEK

Double Bass

Adam HONZÍREK
Petr RIES
Lukáš HOLUBÍK
Gonzalo JIMÉNEZ BARRANCO
Ondřej BALCAR
Martin HILSKÝ
Tomáš KARPÍŠEK
Julius BEČO

Flute

Andrea RYSOVÁ
Naoki SATO
Petr VEVERKA
Jan MACHÁT, *Piccolo*
Lucija HORVAT, *Piccolo*

Oboe

Jana BROŽKOVÁ
Barbora TRNČKOVÁ
Štěpánka ANDĚLOVÁ
Jiří ZELBA

Cor Anglais

Ladislav BOROVKA

Clarinet

Jan MACH
Lukáš DITTRICH
Kateřina ŠKARDOVÁ
Jana KREJČÍ
Vojtěch PACÁK

Bassoon

Ondřej ROSKOVEC
Jaroslav KUBITA
Martin PETRÁK
Ondřej ŠINDELÁŘ

Horn

Ondřej VRABEC
Kateřina JAVŮRKOVÁ
Mikuláš KOSKA
Jindřich KOLÁŘ
Jan VOBOŘIL ml.
Zdeněk VAŠINA

Trumpet

Stanislav MASARYK
Walter HOFBAUER
Martin CHODL
Jaroslav HALÍŘ

Trombone

Lukáš BESUCH
Jan FERNÝ
Lukáš MOŤKA
Bohumil TŮMA

Tuba

Jakub CHMELÁŘ

Timpani / Percussion

Michael KROUTIL
Petr BECK
Miroslav KEJMAR
Daniel MIKOLÁŠEK
Pavel POLÍVKA
Nana FUKUZATO
Tatsuya ISHIKAWA

Harp

Jana BOUŠKOVÁ



Czech Philharmonic

チョ・ソンジン (ピアノ)

Seong-Jin Cho, Piano

チョ・ソンジンは、同世代の最前線で活躍するピアニストのひとりとして、また現在の音楽界において特に際立った存在感を持つアーティストとして名を成している。真摯と純粋さを兼ね備える見事なバランス感覚によって生み出される演奏は、その洞察力や魔法のように豊かな表現力とともに世界的な称讃を受けている。

1994年ソウル生まれ。6歳でピアノを始め、11歳で初めて観客の前でリサイタルを行う。2009年、浜松国際ピアノコンクールで史上最年少優勝。2011年、17歳でチャイコフスキー国際コンクール第3位受賞。2012年から2015年まで、パリ国立高等音楽院にてミシェル・ベロフに師事。

2015年、第17回ショパン国際ピアノ・コンクール優勝。一躍国際的な注目を集めた。翌年にドイツ・グラモフォンと専属契約締結。2023年、クラシック音楽界への顕著な貢献が認められ、「サムスン・ホム賞」受賞。2024/25シーズンには、ベルリン・フィルのアーティスト・イン・レジデンスを務めた。

これまでベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロンドン交響楽団、コンサートヘボウ管弦楽団など世界屈指の楽団と数多く共演し、指揮者ではチョン・ミョンフン、グスターボ・ドゥグメル、アンドリス・ネルソンス、

サー・サイモン・ラトル、ラハフ・シャニらと共演を重ねている。

2025/26シーズンには、ロンドン交響楽団のアーティスト・ポートレートに迎えられ、新曲初演を含む多彩なプロジェクトに取り組む。ピシュコフ指揮チェコ・フィルやシャニ指揮ミュンヘン・フィルとのアジア・ツアー、ネルソンス指揮ゲヴァントハウス管弦楽団とのヨーロッパ・ツアーも予定。

リサイタルでも、コンサートヘボウ、ウィーン楽友協会、サントリーホール、ヴェルビエ音楽祭など世界有数のホールや音楽祭に出演。2024/25シーズンには、ラヴェル生誕150周年を記念し、ピアノ独奏作品全曲をウィーン・コンツェルトハウス、カーネギーホールなど世界各地で披露した。

最新録音はドイツ・グラモフォンからリリースされたラヴェルのピアノ作品(ソロ・協奏曲)全集。ピアノ独奏曲の録音は2025年のオーバス・クラシック賞「年間最優秀器楽奏者部門」を受賞。これまでに「ヘンデル・プロジェクト」、ロンドン交響楽団とのショパン：ピアノ協奏曲第2番とスケルツォ集、ドビュッシーの作品集などをドイツ・グラモフォンからリリースしており、世界中で批評家から絶賛されている。



©Stephen Rabold

Seong-Jin Cho



アナスタシア・コベキナ (チェロ)

Anastasia Kobekina, Cello

ロシア生まれ。4歳でチェロを始め、「フィガロ」紙に「比類なき音楽家」と称された彼女は、その卓越した音楽性と多彩な演奏、そしてダイナミックな存在感で聴衆を魅了してきた。

2019年、第16回チャイコフスキー国際コンクール第3位受賞。2018年から2021年にかけてBBCニュージェネレーション・アーティストを務めた。2022年、「ボルレッティ=ブイトーニ・トラスト・アーティスト賞」を受賞。2024年、「レナード・バーンスタイン賞」を受賞。

2023年5月にソニー・クラシカルと専属契約を結び、翌年にデビュー・アルバム「ヴェニス」をリリースした。

2024年、ヤクブ・フルシャ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団とのドヴォルザークの演奏でBBCプロムスにデビュー。同年のラインガウ音楽祭ではフォーカス・アーティストとして注目を集めた。

2024/2025シーズンにはセミヨン・ピシュコフ指揮チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団などと共演したほか、バーゼル、ミュンヘン、シュトゥットガルトの室内オーケストラとの共演、そしてハーグ・レジデンティ管

弦楽団とのコンサートヘボウ・デビューを果たした。

これまで世界各地の著名なホールや音楽祭で演奏を重ねており、ウィグモア・ホール、アムステルダム・コンセルトヘボウ、リンカーン・センター、ウィーン・コンツェルトハウス、ベルリン・フィルハーモニー、チューリッヒ・トーンハレ、エルブフィルハーモニー・ハンブルクなどで演奏。また、ラインガウ音楽祭、グシュタード・メニュイ・フェスティバル、シュレースヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、ボン・ベートーヴェン音楽祭等にも出演している。

ソリストとしては、パーヴォ・ヤルヴィ、ヤクブ・フルシャ、オメル・メイール・ヴェルバー、ヴァシリー・ペトレンコ、シャルル・デュワといった著名な指揮者陣と共演。

これまでにドイツでフランス・ヘルメルソンとイエンス・ペーター・マインツに、続いてパリでジェローム・ベルノーに師事。現在はフランクフルトにて、クリスティー・フォン・デア・ゴルツのもとでバロック・チェロを学んでいる。

使用楽器は、ハビスロイティンガー・ストラディヴァリウス財団より貸与された、1698年製アントニオ・ストラディヴァリウス製チェロ。



©Andy Paradise

Anastasia Kobekina



曲目解説

寺西基之(音楽評論家) Motoyuki Teranishi

10月22日

ラヴェル: ピアノ協奏曲 ト長調 M.83

モーリス・ラヴェル(1875-1937)は、古典的な様式感を根底に持ちながらも、斬新な響きを追求してフランス近代音楽に新しい展開をもたらした作曲家だった。その革新的な姿勢は生涯変わることがなく、後期にはジャズの語法も取り入れている。1929年から31年にかけて書かれたこのピアノ協奏曲はそうした後期の彼の代表作のひとつ。急緩急の伝統的な3楽章構成によりつつも、そこにジャズの語法、躍動的なリズム、複調などのモダニズムを混ぜ合わせたセンス満点の作品で、鮮やかな技巧や色彩を振りまく独奏ピアノとソロイスティックな活躍を見せるオーケストラの各楽器の組み合わせが多様な響きを生み出す軽妙洒落な協奏曲である。

第1楽章(アレグロ・メンテ)は鞭の一打ちに始まり、快活な第1主題(ピッコロとトランペット)と叙情的な第2主題(ピアノ独奏)によって発展する。ハープのカデンツァ風の1節も注目されよう。第2楽章(アダージョ・アッサイ)はピアノが叙情的な歌を紡ぐ魅力的な緩徐楽章。主題再現ではコーラングレに旋律が移り、ピアノがそれを美しく彩る。第3楽章(プレスト)はめくるめくばかりの急速なトッカータ風の音の動きで運ばれる短くも鮮やかなフィナーレ。

ショスタコーヴィチ: 交響曲第8番 ハ短調 Op.65

旧ソ連の作曲家ドミトリー・ショスタコーヴィチ(1906-75)が第2次大戦中の1943年に作曲したこの交響曲第8番は当初から論議を巻き起こした。この年ソ連軍はスターリングラードでドイツ軍を壊滅し、戦局に勝利への光が見え始めていた。こうした状況下でソ連当局がショスタコーヴィチの新作交響曲に期待したのは前作の《交響曲第7番「レニングラード」》(1941年)の続編となるような国威発揚の作品だった。しかし完成された第8番はそうした期待に反する暗い悲劇性を持つ深刻な作品であった。たしかに終楽章には明るさも垣間見られるが、それは決して当局の求めていたような勝利の表現でなく、どこか屈折している。戦争の悲劇は勿論のこと、スターリンの専政下での民衆の苦しみ、さらには粛清の恐怖を感じていた作曲者自身の心情をも反映したような重々しい緊張に満ちた大作である。

全体は5楽章構成。第1楽章(アダージョ)は悲劇的かつ長大な緩徐楽章。中間部は戦闘的になるが、その頂点で絶望的な響きとともにアダージョに回帰し、イングリッシュホルンのモノローグを経て暗い淵へ沈んでゆく。第2楽章(アレグレット)は威圧感と諧謔性を持つ行進曲風のスケルツォ。第3楽章(アレグロ・ノン・トロポ)もスケルツォ的な行進曲で、緊迫した攻撃性が支配する。そのまま続く第4楽章(ラルゴ)は絶望を感じさせる序奏の後、暗澹としたパッサカリアが展開する。そして休みなく第5楽章(アレグレット)に入る。前述のように光が射して来るように結句は晴れ渡るようなフィナーレで、やがて第1楽章の悲劇も再現され、最後は消え行くように終わる。

10月23日

ドヴォルザーク: チェロ協奏曲 ロ短調 Op.104

チェコ国民楽派の作曲家アントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)は晩年の一時期、ニューヨークのナショナル音楽院院長として新大陸で暮らした。アメリカ時代(1892-95)の彼は院長としての職務を果たしながらも望郷の念を募らせ、そうした思いを強く打ち出した傑作を書いている。1894年晩秋から翌年2月にかけて作曲された《チェロ協奏曲》もそのひとつで、民俗的楽想に基づく情熱表現と美しい叙情表現の交錯のうちに母国への郷愁をあらわにしたような作品だ。その一方で名技的な独奏の扱い、独奏と管弦楽の緊密な結び付きには円熟期の彼の確かな書法が見て取れる。

第1楽章(アレグロ)は悲愴感に満ちた第1主題とノスタルジックな第2主題を持つ劇的な起伏に満ちた協奏的ソナタ形式。第2楽章(アダージョ・マ・ノン・トロポ)は懐かしさと孤独感を湛えた緩徐楽章。中間部の主題は自作の歌曲《私に構わないで》の旋律によるが、この歌曲はドヴォルザークの昔の恋人ヨゼフィーナ(結局その妹が彼の妻となった)が好んでいたものである。第3楽章(アレグロ・モデラート)は民俗的テーマを持つロンドで、技巧的なチェロと雄弁な管弦楽が起伏溢れる展開を繰り広げる。なお一応の完成後、前述のヨゼフィーナが死去し、ドヴォルザークは彼女への追悼の思いを込めて新たに現行のコードを書いた。そこには先の歌曲の旋律も取り入れられている。

チャイコフスキー: 交響曲第5番 ホ短調 Op.64

19世紀後半のロシアを代表する作曲家ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840-93)の交響曲は初期の作からロシア的な民族表現が打ち出されているが、中期の1877年に書かれた《交響曲第4番》では、そうした民族的特質を重ねて彼自身の運命的な出来事を象徴的に表現するという自伝的要素が加わるようになる。その方向は、10年以上の間をおいて後期の1888年に書かれたこの《交響曲第5番》において、より円熟した作風のうちに示されることとなる。運命との闘いが確かな構成のうちに表現された作品で、第1楽章冒頭でクラリネットに示される暗い旋律が運命を象徴する循環主題として全楽章に現れ、闘争→勝利という全体の構図を際立たせている。

第1楽章(アンダンテ・アレグロ・コン・アニマ)は感情の起伏に富む悲劇的かつ闘争的なソナタ形式楽章。第2楽章(アンダンテ・カンタービレ)はロシア的な情感に満ちたホルンの主題に始まる美しい緩徐楽章。中間部と終結部に前述の循環主題が威嚇するように出現する。第3楽章(アレグロ・モデラート)は優美なワルツだが、ここでも最後に循環主題がひそやかにしのびよってくる。第4楽章(アンダンテ・マエストロ・ソ・アレグロ・ヴィヴァーチェ)では長調で循環主題が朗々と力強く示される序奏の後、主部では劇的な闘争が繰り広げられるが、最後のコードは輝かしい勝利に至り、第1楽章第1主題も明るく高らかに再帰する。



ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちを寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。
「人のいるところには夢がある」2026年には創業50周年を迎えるジャパン・アーツの理念です。
どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、人々に夢・希望・生きる力を
与えてくれます。これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに
掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
今年も引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆

<年間サポート>

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 M.I. 岩村 和央 K.U. 上村 憲裕 榎本 英二 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子
K.K. 神田 尚子 北村 眞 小林 真希子 R.K. 相良 延利 新貝 康司 鈴木 忠明 M.T. R.T.
武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎 東條 Lilly K.T. トゥルラブ 真智子 苫米地 英人 K.N. E.N.
児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 T.H. 樋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子
M.H. 松尾 芳樹 真野 美千代 三木谷 晴子 安田 牧子 山川 和子 山崎 明日香 横谷 雅子 (匿名希望15名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社青林堂
三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

<館野泉バースデープロジェクト「みんなで祝おう!」卒記念コンサート>

池戸 真理子 一柳 吉子 稲垣 美晴 えこ 上原 洋子 植村 月枝 岡村 茉莉奈 木全 恵美子
久間 和子 坂井 和 佐々木 暁子 澤井 みより スオミ・ピアノ・スクール研究会 鈴木 早苗 高橋 理都子
田邊 英利子 照井 はるみ K.T. 中村 康江 服部 喜恵子 林 幸仁 原田 君代 平山 美由紀 福田 誠
藤澤 ふさ子 安田 牧子 湯本 早百合
館野泉ファンクラブ 館野泉ファンクラブ九州 館野泉ファンクラブ北海道
(匿名希望3名)

<ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

石坂 雅美 K.I. K.K. Y.K. 佐久間 隆弥 Rimiko N.S. 竹内 麻里子 中尾 圭吾 T.H.
樋口 美枝子 K.F. 細沼 康子 M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 ロロコミ (匿名希望11名)

<ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

江田 明子 T.O. K.K. 佐久間 隆弥 Rimiko 竹内 麻里子 M.T. 平山 美由紀
細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子 ロロコミ (匿名希望9名)

<千住真理子に「花を贈ろう!」プロジェクト>

石坂 雅美 北村 眞 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 田中 治郎
H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子 (匿名希望7名)

2025年10月7日現在(敬称略)

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)